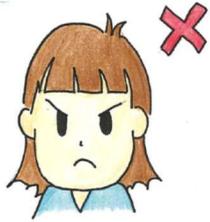


ひ

否定



だめ！！
ばか、どっかいけ
無視も否定です

ブルーカード 西部こどもC@山形

ど

怒鳴る叩く



いいかげんにしろ
ふざけるな！など
叩く、蹴る、物を投げるな
どの暴力全般

ブルーカード 西部こどもC@山形

い

いやみ



いつもやればいいのに
今日はめずらしいね～

ブルーカード 西部こどもC@山形

お

おどす



今度××したら承知しないよ
～に怒ってもらおうよ
家におられなくなるよ

ブルーカード 西部こどもC@山形

と

といただす追い詰める



説明しなさい！
言いなさい！

ブルーカード 西部こどもC@山形

き

疑問形

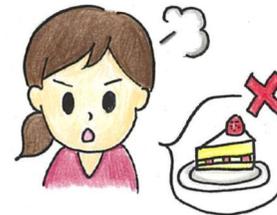


なんで〇〇したの？
どうして〇〇したの？

ブルーカード 西部こどもC@山形

は

罰を与える



一週間おやつ抜き！！
外出禁止！！
もう〇〇と遊ぶな！

ブルーカード 西部こどもC@山形

なし

なじる



こんなこともできないなん
てろくな大人になれんよ

ブルーカード 西部こどもC@山形



否定



間違っただけをした場合には、こどもを否定せず、行動を否定しましょう。「あなたはダメだね」ではなく、「人を叩いてはダメ。〇〇しようね」のようにして欲しい行動を伝えるほうが効果的です。

できるなら、こどもの気持ちに共感する「〇〇したい気持ちはわかるよ」と一旦気持ちに寄り添うと話が伝わりやすくなります。



怒鳴る叩く



令和 2 年の児童福祉法等の改正でしつけであっても体罰を用いることが法律で禁止されました。しつけとは、こどもの人格や才能を伸ばし、社会で自立して生きていけるようこどもをサポートして社会性をはぐむ行為と定義されています。体罰は違法行為で、身体になんらかの苦痛や不快感を意図的にもたらす行為(罰)です。



いやみ



つつい出る言葉、嫌みな言い方が出ることはありますが、こどものやる気スイッチをオフにしてしまうことがあります。大人になってしまうと忘れてしまいがちですが、こども時代に親が言った一言でやる気をそがれた経験はありますか？その言葉や態度を思い出し控えましょう！他の人間関係にも応用が利きますよ。



おどす



よくない行動、やめて欲しい行動を減らすために、「次にやったらどうなるかわかるとるんか」と脅すことがあります。その方法では、「怖い」という怯えの気持ちで心がいっぱいになり、どんな行動をするべきだったのか学ぶことになりません。「しつけ」をするには、してほしい行動をわかりやすく伝えることが効果的です。



とい詰める



親もこどものすることが理解できず、とい詰めることがありますよね。「おどす」と同じで、こどもは、親がおこっている、怖いということが印象にのこり、何をすべきだったのかわからないままになることが多いです。

とい詰めるよりは、まずは親が落ち着いて、こどもの気持ちを聞き、してほしい行動を伝えるほうが効果的です。



疑問形



「なんで？」「なにがしたいん？」と親としてはなぜそんなことをしたのかと疑問形でせまってしまうことがありますね。こどもの答えが意味の分からないものであればさらに怒りが倍増してしまう可能性があります。こどもの気持ちを聞き、してほしい行動を伝えるほうがこどものしつけには効果的です。親のイライラも減るかもです。



罰を与える



体罰がこどもの成長・発達に悪影響を与えることは科学的にも報告されています。体罰の繰り返しにより、「落ち着いて話を聞けない」「約束を守れない」「我慢ができない」「感情をうまく表せない」など心身にさまざまな悪影響が生じることがあります。罰はペナルティとして、サイズを考え、してほしい行動が伝わるものにしましょう。



なじる



人はなじられると、自信を失い、自己肯定感が低下します。こども時代は性格や考え方の癖など人格が形成される、社会性を養われる重要な時期です。自分は愛されている、認められている、居心地が良いという気持ち、安心感が持てていることは肯定感につながり、大人との信頼関係が鍵になります。親がそういった存在になるには「認める」が最も有効です。